

# 小学校低学年の体育授業における「走の運動遊び」の学習指導に関する研究

A Study on the Instruction of the “Play with Running” in the Lower grade  
of Elementary School Physical Education Class

梶将徳<sup>1)</sup>, 友添秀則<sup>2)</sup>, 吉永武史<sup>2)</sup>, 鈴木康介<sup>3)</sup>

<sup>1)</sup>早稲田大学大学院スポーツ科学研究科

<sup>2)</sup>早稲田大学スポーツ科学学術院

<sup>3)</sup>中部学院大学スポーツ健康科学部

Masanori Kaji<sup>1)</sup>, Hidenori Tomozoe<sup>2)</sup>, Takeshi Yoshinaga<sup>2)</sup>, Kousuke Suzuki<sup>3)</sup>

<sup>1)</sup>Graduate School of Sport Science, Waseda University

<sup>2)</sup>Faculty of Sport Sciences, Waseda University

<sup>3)</sup>Faculty of Sports and Health Science, Chubu Gakuin University

キーワード: 小学校低学年, 走の運動遊び, 疾走速度, 疾走動作

Key words: lower grade of elementary school, play with running, sprint speed, sprint form

## 【抄録】

本研究の目的は、小学校低学年を対象とした体育授業において、学習者の疾走動作が変容するか明らかにし、さらに、疾走動作の変容と疾走速度との関係を明らかにすることである。対象は小学校低学年児童 29 名(男子 15 名, 女子 14 名)であった。また、本研究の結果については、疾走動作得点ならびに 50m 走タイムから検討することとした。

本研究の結果の概要は以下の通りである。

- 1) 毎時間、授業終了後に実施した形成的授業評価の結果ならびにその推移より、単元前半では「成果」次元の得点が低い値であったものの、単元の進行に伴って向上したことから、実施した授業は学習者から概ね良い評価を得ることができたといえる。
- 2) 学習者全体 ( $n=26$ ) では、上肢(「肘の引き出し」, 「腕振りの方向」), 体幹(「背中の湾曲・体幹の前傾」), 下肢(「遊脚膝関節の屈曲」, 「挟み込み動作のタイミング」)の疾走動作得点が有意に向上し、さらに、「下肢平均」の変化値と 50m 走タイムの変化値との間に有意な負の相関関係が認められた。
- 3) 50m 走タイムの標準化得点を参考に上位群, 中位群, 下位群の 3 群で疾走動作得点ならびに 50m 走タイムの結果を検討したところ、中位群 ( $n=9$ ) では、体幹(「背中の湾曲・体幹の前傾」)の疾走動作得点の有意な向上が認められたものの、50m 走タイムは有意な短縮が認められなかった。
- 4) 下位群 ( $n=9$ ) では、上肢(「腕振りの方向」), 体幹(「背中の湾曲・体幹の前傾」), 下肢(「遊脚膝関節の屈曲」, 「挟み込み動作のタイミング」)の疾走動作得点の有意な向上が認められ、50m 走タイムは有意な短縮が認められた。

以上の結果から、低学年の「走の運動遊び」は、単に中学年の「かけっこ」や高学年の「短距離走」の前段階として走動作を習熟させる内容ではなく、速く走るための疾走動作を習熟させる内容として位置づけられよう。

スポーツ科学研究, 14, 72-89, 2017年, 受付日: 2017年5月19日, 受理日: 2017年12月2日

連絡先: 梶将徳 〒359-1192 埼玉県所沢市三ヶ島2-579-15 早稲田大学スポーツ科学研究科

E-mail: 12345@akane.wasede.jp